

芦屋市創生総合戦略の事業実施内容について

基本目標	主な取組	評価対象事業 (地方創生関連交付金を活用した取組や本市での特徴的な事業, プロジェクトチームによる企画立案などを選定)
1 安全・安心で良好な 住宅地としての 魅力を高め、継承する	(1) 良質な住まい・住環境の 形成	1 景観施策の推進 2 住宅都市の活性化 3 シティプロモーションの推進
	(2) 地域における医療・福祉 の充実	4 全世代交流の居場所づくり
	(3) 安全・安心なまちづくり の推進	5 防災・防犯の取組
2 若い世代の子育ての 希望をかなえる	(1) 妊娠・出産・子育ての 支援	6 子育ての支援 7 女性活躍の推進
	(2) 教育環境の充実	8 教育環境の充実

基本目標 1 安全・安心で良好な住宅地としての魅力を高め、継承する事業

(1) 良質な住まい・住環境の形成

事業	景観施策の推進				事業 No	1																			
目的	美しい景観により良質な住まい・住環境の形成を目指す。																								
実施内容	<p>公共サインの設置</p> <p>平成 28 年度策定の「芦屋市公共サイン計画」に基づき、JR 芦屋駅と阪神芦屋駅間を結ぶエリアをモデル地区と定めて、4 基公共サインを設置した。<u>平成 31 年度までの 3 年間合計で大小 82 基を設置する予定。</u></p> <p>公共サインの設置費：5,184 千円</p> <p>【課題】まちの回遊性向上と景観に配慮したサイン配置を両立する必要がある。</p> <p>【方向性】JR 芦屋駅周辺に公共サインを設置する。また、道路上のサインの統一化を図る。</p>																								
	<p>屋外広告物条例の推進</p>																								
	<p>芦屋市屋外広告物条例の基準に適合しない屋外広告物を掲出している広告主に対して、<u>文書や個別訪問等</u>により条例内容の周知を行った。</p> <p>また、事業主にとってより活用しやすいよう補助の限度額を右図のとおり引き上げた。</p> <p>(補助制度申請件数 平成 28 年度：7 件、平成 29 年度：39 件)</p>																								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="2">平成31年6月30日までに補助事業を完了させるもの</th> <th colspan="2">平成33年6月30日までに補助事業を完了させるもの</th> </tr> <tr> <th></th> <th>補助率</th> <th>限度額</th> <th>補助率</th> <th>限度額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>改修費用</td> <td>2分の1</td> <td>100万円→200万円</td> <td>3分の1</td> <td>50万円</td> </tr> <tr> <td>撤去費用</td> <td>3分の2</td> <td>100万円→200万円</td> <td>2分の1</td> <td>50万円</td> </tr> </tbody> </table>							平成31年6月30日までに補助事業を完了させるもの		平成33年6月30日までに補助事業を完了させるもの			補助率	限度額	補助率	限度額	改修費用	2分の1	100万円→200万円	3分の1	50万円	撤去費用	3分の2	100万円→200万円	2分の1
	平成31年6月30日までに補助事業を完了させるもの		平成33年6月30日までに補助事業を完了させるもの																						
	補助率	限度額	補助率	限度額																					
改修費用	2分の1	100万円→200万円	3分の1	50万円																					
撤去費用	3分の2	100万円→200万円	2分の1	50万円																					
<p>【課題】基準に適合しない屋外広告物の早期改修、撤去を促進するよう、補助制度の周知に努める。</p> <p>【方向性】補助制度を活用できる広告主に対し、より丁寧な説明を行い、理解を得るよう努める。また、適宜に現場調査を行い、違反物件に対し適切に指導する。</p>																									
<p>無電柱化事業の推進</p>																									
<p>芦屋市無電柱化推進計画の策定作業及び芦屋市無電柱化推進条例の制定作業に着手した。</p> <p>また、さくら参道における電線共同溝整備工事にも着手した。(無電柱化率 12.4%)</p> <p>無電柱化の工事費：66,213 千円</p>																									
<p>【課題】無電柱化事業における関係機関及び沿道住民との丁寧な協議が必要である。</p> <p>【方向性】芦屋市無電柱化推進計画の策定及び公表と芦屋市無電柱化推進条例の制定を行う。</p> <p>また、無電柱化事業の実施に向けて、課題の整理、共有化を図り、実施手法を定める。</p>																									
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>〔無電柱化前〕</p> </div> <div style="font-size: 2em; color: green;">➔</div> <div style="text-align: center;">  <p>〔無電柱化後(イメージ)〕</p> </div> </div>																									



阪神芦屋駅（東出口北側）

基本目標 1 安全・安心で良好な住宅地としての魅力を高め、継承する事業

(1) 良質な住まい・住環境の形成

事業	住宅都市の活性化		事業 No	2
目的	住宅都市としての魅力を一層高める			
実施内容	<p>宮塚公園の改修</p> <p>通りに面した憩える場所とすることで、地域コミュニティの創出を図り、公園などの公共施設やお洒落な店舗が並ぶ通りの魅力を向上させるため、公園の利活用促進や周辺地域の活性化について地域と協議を重ね、オープンスペースとなるよう宮塚公園の改修を行った。</p> <p>宮塚公園改修費：22,771 千円</p> <p>【方向性】商業施設が集まる宮塚公園周辺を含む地域をブランディングエリアとし、更なる賑わいなど、新たな価値の創出を図っていく。 当該エリア内にある旧宮塚町住宅を女性活躍及び情報発信の場として、また、市民活動センターを市民活動の拠点としてそれぞれ改修を行う。</p> <p>空き家の活用</p> <p>戸建て空き家に対する所有者意向調査を実施し、3戸から公的活用が可能である旨の回答を得たことから、ストック活用に関するプロジェクト・チームで組織横断的に活用方法を協議・検討を行ったが、立地等の条件から公的活用は困難であると結論付けた。 この検討結果を踏まえ、民間による活用を促すため、空き家を活用しようとする者に対し、一定額の補助を行う空き家活用支援事業の平成30年度実施に向けて取り組んだ。</p> <p>空き家の意向調査費：295 千円</p> <p>【課題】行政における空き家の利活用について、地域交流拠点だけではなく、定住を目的とした取組を行う必要がある。 【方向性】良質な住宅ストックが有効活用されるよう、空き家活用支援事業の補助制度の周知を行う。 また、空き家に対する適切な維持管理に関する啓発や利活用とともに、各施策との連携など様々な視点からの空き家の活用を進める。</p>		<div data-bbox="1290 389 1361 667" style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;">改修前</div>  <div data-bbox="1290 667 1361 992" style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;">改修後</div> 	

基本目標 1 安全・安心で良好な住宅地としての魅力を高め、継承する事業

(1) 良質な住まい・住環境の形成

事業	シティプロモーションの推進	事業 No	3
目的	本市の魅力を各施策のターゲット層に効果的に発信することで流入人口の増加を目指す。		
実施内容	<p>「モダニズム」 & 「ネイチャー」による2市1島プロモーション事業 地方創生推進交付金対象事業（交付金 12,687 千円）</p> <p>「島&都市デュアル」事業 プロモーション事業負担金：19,899 千円 神戸市，洲本市，淡路市と連携し，「都市の文化と島の豊かさが両立できるライフスタイル」を各市の市民で構成された暮らしナビゲーターが中心となり，旅の企画やレポート記事の発信をWEBサイトやSNSを通じて行った。</p> <p>また，首都圏のメディアや首都圏を中心とした移住関心者に向けた暮らしツアーを実施した。移住関心者に向けたツアーでは，「子育て・スタートアップコース」「地域コミュニティコース」「こだわり島暮らしコース」と3つのコースに分け合計23名のかたに参加いただき，地域での生活体験や地域住民との交流を図った。今後は，首都圏を中心に移住に向けた発信をより推進していく必要がある。</p>   <p>首都圏における移住促進事業 業務委託費：797 千円 二子玉川葛屋家電にて市内の2事業者とともに，移住に向けた魅力発信事業を展開した。</p> <p>市内事業者の商品販売等を通じて集まった顧客に対して，PR動画や給食レシピ本，イン스타그램投稿等による写真の展示を通じて芦屋市の魅力発信を行った。</p> <p>首都圏にお住まいのかたに対して芦屋市への高級感だけではない好意的なイメージが醸成できた。</p>  		

芦屋市シティプロモーション事業

プロモーション事業委託費：36,806千円

市民のシビックプライドの醸成及び本市の住みやすさの認知度向上を目的に以下の事業を実施した。

- ・インスタグラム投稿キャンペーン：3回に分けて実施。応募投稿数1,210枚。フォロワー数490人。
- ・芦屋市シティプロモーション応援者募集：登録者にイベント情報等を発信。350名登録。
- ・ママ・パパのための料理セミナー：市内のシェフによる講座及び小学校の栄養士による（給食レシピ本）料理講習。福祉センターにて2回。芦屋大学にて2回実施。
- ・SNS映えフォトセミナー&撮影会：高座の滝・総合公園・モノリスにて実施。セミナー実施後にインスタグラム投稿数の増加へと繋がった。
- ・PR動画「Sound of ASHIYA」公開：43名の市民が出演。
東急お知らせモニター及び阪急ターミナルビジョン「BIGMAN」にて放映。
- ・親子で楽しむ芦屋クラシック体験：芦屋市立美術博物館にてクラシックコンサート及び楽器体験を実施。定員300名に対して1,041名の応募。
- ・書籍「芦屋～あしやを歩く本～」の制作：平成30年5月28日(月)発売。合計210件の施設・店舗等取材し掲載。



阪神間連携ブランド発信事業

事業費：1,464千円

神戸市、西宮市、阪神電気鉄道と連携し「阪神間モダニズム」によって醸成されたこの地域特有の文化を、地域の魅力として発信することを目的に、スイーツスタンプラリー及び各市での関連イベントを実施。3市でのスタンプラリー配布数24,000部。

芦屋市では、①芦屋モノリスでの「レトロティパーティ&フォトセッション」②ラポルテホールでの「コーヒーの魅力」と「スイーツマルシェ」を実施。イベント参加者134名。マルシェ出展数14団体。



【シティプロモーションの方向性】

- ・首都圏においては、市内事業者と連携しイベントを実施することで、本市の利便性・住みやすさの認知度向上を図る。
- ・市内でのイベントや「あしやを歩く本 芦屋」等のコンテンツを活用し、市民のシビックプライドの醸成を行ない、SNS等を通じて情報提供を行うことで市外から本市を訪れる機会の増加を目指す。

基本目標 1 安全・安心で良好な住宅地としての魅力を高め、継承する事業

(2) 地域における医療・福祉の充実

事業	全世代交流の居場所づくり		事業 No	4
目的	全世代が交流し、地域の課題を地域で解決する仕組みを推進する。			
実施内容	<p>全世代の居場所づくり</p> <p>全世代が住みよいまちづくりに向け、全世代交流に向けたプロジェクト・チームを設置して、民間企業等の多様な主体との協議の場である「こえる場！（33 団体 58 名）」を新たに開催し、<u>キッズスクエアのプログラムの充実など新たなアイデアの実現に取り組んだ。</u></p> <p>また、「こえる場！」に参画した団体とともに、イベント「芦屋なんでもフェスタ」を企画した。（イベント自体は荒天により中止）</p> <p>【課題】地域発信型ネットワークに参画する市民との協働を図る。</p> <p>【方向性】「こえる場！」の継続による新たなアイデアの実現を仕組み化できるよう検討し、企画を行う。</p>			
	<p>ひとり一役活動の実施</p> <p>平成 29 年度より介護保険施設や高齢者の居宅において、ボランティア活動を行う方を「ひとり一役ワーカー」として登録し、活動によってポイントを付与する制度であるひとり一役活動を新たに実施した。（平成 29 年度末時点で、ひとり一役ワーカー：123 名、受け入れ施設：24 か所） 業務委託費：7,517 千円</p> <p>【課題】65 歳未満の登録が少ないため、周知・啓発が必要である。</p> <p>【方向性】制度の周知等により、若い世代の活動者、担い手を増やしていく。</p>			

基本目標 1 安全・安心で良好な住宅地としての魅力を高め、継承する事業

(3) 安全・安心なまちづくりの推進

事業	防災・防犯の取組		事業 No	5
目的	防災力・防犯力を高め、安全・安心なまちづくりを推進する。			
実施内容	<p>防犯カメラの設置</p> <p>犯罪の抑止を目的とし、通学路を中心に他の施策（街灯を明るくする・樹木を剪定するなど）を講じてもお不安感がぬぐえず、事案が複数回発生し得る様な個所を優先的に防犯カメラの設置をする。平成 28 年度の小学校区ごとの意見交換会の意見を反映させ、防犯カメラを新たに 20 台設置した。（計 100 台）</p> <p>防犯カメラ設置費：9,103 千円</p> <p>【課題】防犯カメラの有効性について、確認し、今後の配置について検討する。</p> <p>【方向性】防犯については、引き続き芦屋警察やまちづくり防犯グループ等関係機関と連携し犯罪抑止に努める。</p> <p>防犯カメラについては、通学路合同点検などの機会を捉え、設置した防犯カメラの有効性についての意見を聞き、今後の設置に反映させる。</p> <p>公共施設への Wi-Fi 導入</p> <p>災害時でも必要な情報を入手・発信しやすい環境を整備するため、市内の避難所をはじめ、公共施設に誰でも無料で使用できる公衆無線 LAN スポットを 27 拠点設置した。</p> <p>Wi-Fi 導入費：5,393 千円</p> <p>※この他、災害時に避難所となっている市内小中学校（11 校）に無線アクセスポイントを設置した。</p> <p>【課題】建物の構造等により、通信強度の弱い施設等が存在する。</p> <p>【方向性】平成 29 年度をもって一定の整備は終えたものと考えているが、</p> <p>改修スケジュール等の関係で未整備となっている施設や、新規要望のあった施設については、平成 30 年度に整備を行う。</p> <p>土砂災害特別警戒区域等への対策</p> <p>土砂災害特別警戒区域等の指定に伴い、兵庫県と芦屋市の共同により住民説明会を 4 回実施した。</p> <p>土砂災害特別警戒区域の指定に伴い建物の移転及び改修の補助金要綱を作成した。</p> <p>【課題】県の急傾斜地崩壊対策事業による対策工事が早期に着手されるように、県への要望を継続して行う。</p> <p>【方向性】市有地においては、対策工事を実施し、その他の区域については、県の急傾斜地崩壊対策事業の周知を進める。また、防災情報マップ等による指定区域の周知及び災害発生時の早期避難の啓発を行う。</p>			

避難所施設 (19 ヶ所)	避難所以外の施設 (8 ヶ所)
地区集会所 12 ヶ所 保健福祉センター (北館・南館) 体育館・青少年センター 本庁舎東館 上宮川文化センター 市民センター 総合公園管理事務所	本庁舎北館・南館 潮芦屋交流センター 市民活動センター 芦屋公園テニスコート 谷崎潤一郎記念館 美術博物館 富田砕花旧居



基本目標 2 若い世代の子育ての希望をかなえる

(1) 妊娠・出産・子育ての支援

事業	子育ての支援	事業 No	6
目的	子育てしやすいまちづくりに向け、子育て世代の希望をかなえる施策を推進する。		
実施内容	<p>キッズスクエア事業の充実</p> <p>打出浜小学校、岩園小学校において新たに事業を開設し、市内全 8 小学校での実施に至った。(平成 29 年度登録児童数：2,338 名、児童登録率：50.6%)</p> <p>事業費：28,773 千円</p> <p>【課題】小学校でのキッズスクエア実施のための場所を確保する必要がある。また、私立小学校に通う児童の参加について、検討を要する。</p> <p>【方向性】企業との連携により、一層魅力的なプログラムを実施し、参加を促進する。トータルコーディネーターを配置し、各小学校やマネージャーとの連携を図る。</p> <p>今後も地域との連携を深め持続可能性をさらに高めていく。</p> <p>夏休みの放課後児童健全育成(学童保育)事業の実施</p> <p>子どもの居場所づくりとして、夏休みに精道幼稚園で民間事業者の運営により実施した。(開所日数 29 日、出席児童数 293 名)</p> <p>委託費：1,262 千円</p> <p>【課題】市内一か所で実施したが、保護者の希望は校区内運営であった。</p> <p>【方向性】放課後児童健全育成事業として、民間活力の導入を図る。</p> <p>「市立幼稚園・保育所のあり方」の推進</p> <p>平成 28 年度に引き続き住民説明会を開催し、いただいたさまざまな意見等を踏まえ「市立幼稚園・保育所のあり方」をより良くするため一部変更を行った。(説明会 27 回開催。変更内容は以下の通り： 駐車場、スクールゾーン等の課題の解決を検討し、市立朝日ヶ丘幼稚園敷地に私立幼保連携型認定こども園を誘致する。 市立打出保育所の民間移管時期を平成 34 年 4 月に変更する。 伊勢幼稚園と新浜保育所を統合し定員規模 186 人の市立幼保連携型認定こども園とし子育て支援施設を併設する。宮川幼稚園は引き続き幼稚園としての運営を行う。 市立伊勢幼稚園敷地に私立幼保連携型認定こども園を誘致する。)</p>		

基本目標 2 若い世代の子育ての希望をかなえる

(1) 妊娠・出産・子育ての支援

事業	女性活躍の推進	事業 No	7
目的	女性が様々な場面で、その能力や個性を発揮し、活躍できる社会の実現に向け、施策を推進する。		
実施内容	<p>「女性が輝くまち 芦屋」プロジェクトの実施 地方創生推進交付金対象事業（交付金 6,599 千円）</p> <p>子育て世代も含めた女性の活躍を促すため、「女性が輝くまち 芦屋」の実現を目指した ASHIYA RESUME 事業を開始し、以下の取組を行った。</p> <div style="text-align: right;">  </div> <p>リサーチ</p> <p>施策の方向性を決定するため、対象となる女性に対し、主に働き方に関するアンケートやグループインタビューを実施した。また、市内事業者を個別訪問し、事業説明を行ない、協力事業者には、現場での女性活躍の把握を目的としてヒアリング調査を実施した。</p> <p>プロモーション</p> <p>プロジェクトネーミングとシンボルロゴを作成し、市民に広く事業をPRするとともに、女性活躍に関する情報提供やイベントの告知等のため、特設ホームページを開設し、周知に努めた。</p> <p>イベントの実施</p> <p>キックオフとして市内事業者を中心に説明&交流会「ASHIYA RESUME meeting」（85名参加）</p> <p>「さらに新しい私と出会う。」をテーマにセミナー&相談会「ASHIYA RESUME matching」を実施した。（93名参加）</p> <p>「新しい働き方」の発見を目的として、「ASHIYA RESUME workshop」起業・創業編（29名参加）再就職・再就労編（35名参加）等を開催した。</p> <p>プロジェクトへの参加希望者の登録促進</p> <p>プロジェクトへの参加希望者として、就業・起業希望者 132名の登録を得た。</p> <p>委託費等：13,389 千円</p> <p>【課題】 プロジェクトの認知度及び興味関心を高め、登録・協力者を増やすこと並びに起業・再就労などの結果につながる実践的な支援を行なうこと</p> <p>【方向性】 アンケート調査等から起業への意識が高いことが特徴であり、引き続き ASHIYA RESUME 事業を実施するとともに、関係課・事業者等と連携して女性の起業・就労支援等に関する事業及び情報発信の場を整備する。</p>		

基本目標 2 若い世代の子育ての希望をかなえる

(2) 教育環境の充実

事業	教育環境の充実		事業 No	8									
目的	特色ある教育を行い、教育環境の一層の充実を図る。												
実施内容	<p>食育の取組</p> <p>本市の学校給食の魅力を全国に発信するため、cookpadに「芦屋の学校給食」のページを開設し、栄養価にも考慮した学校給食のレシピを紹介した。保護者や市外のかた向けに市内のシェフによる講座及び小学校の栄養士による書籍「芦屋の給食」掲載レシピの料理セミナーを実施した。(参加者：約135名) また、「味覚の授業」を引き続き実施した。</p> <p>【方向性】引き続き地産地消週間や料理セミナーなどを通じて食育を進める。また、山手中学校での給食を平成30年度中に開始する。</p> <p>体力向上の取組</p> <p>体を動かすきっかけづくりとなるよう、平成28年度に引き続き小学校スポーツ交流会を実施するとともに、新たに中学校を対象としたスポーツ交流会を実施した。</p> <table border="1" data-bbox="965 708 1570 818"> <thead> <tr> <th></th> <th>対象</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校</td> <td>5年生</td> <td>フラッグフットボール</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>1年生</td> <td>陸上競技</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】全国体力・運動能力調査においては、全国平均に満たない種目が多く、体を動かす機会の充実が必要である。</p> <p>【方向性】関係機関との連携を図りながら、市内全体の幼児児童生徒の体力向上施策を進める。</p> <p>読書のまちを推進する取組</p> <p>読書のまちづくり推進に向けたプロジェクト・チームを設置し、既存の読書関連事業やイベントの見直しを行った。また、図書館、美術博物館、谷崎潤一郎記念館の連携により、屋外で読書を楽しむイベントとして「niwa-doku」を実施した。(参加者：約560名)</p> <p>【方向性】引き続き、関係機関との連携を深め、公立図書館・学校図書館等の読書環境の整備を進める。また、平成30年度は図書館本館大規模改修工事を実施する。</p>					対象	内容	小学校	5年生	フラッグフットボール	中学校	1年生	陸上競技
	対象	内容											
小学校	5年生	フラッグフットボール											
中学校	1年生	陸上競技											

